

第2回千早赤阪村外部評価委員会会議録（要旨）

日 時 平成26年9月16日（火） 午後1時30分～午後3時50分
場 所 保健センター 3階 研修室
出席者 澤井委員長、井関副委員長、岡委員、清水委員、道田委員
事務局 吉田副村長
松村理事
総務課：森田課長、日谷課長代理、中島主事
住民課：池西課長、辻野主事
教育課：矢倉教育長、中野課長、植木課長代理、田中係長
地域振興課：北浦課長、井上課長代理
傍聴者 0名
会議概要 開会
1. 事業の外部評価
（3）資源リサイクル推進事業
（4）給食センター維持管理事業
（5）金剛山の里 棚田夢灯り&収穫祭
2. その他
閉会

【議事要旨】

1. 事業の外部評価について

（3）資源リサイクル推進事業<質疑応答>

（岡委員）

事務事業評価調書のⅡ事務事業の実施（2）成果指標等のところで、目標値310・実績値276となっているが、どういった意味合いの目標値なのか。目標値に近づけば近づくほど良いということはないのでしょ。

（事務局：辻野主事）

そうです。

（岡委員）

それならば、目標値に対して回収できなかったという意味ではないのですね。

（事務局：辻野主事）

そうです。

(岡委員)

それぞれの目標指標の達成率平均値の82%を用いて、検証結果の評価値を導き出していますよね。そうすると、値が大きければ大きいほど、評価ランクが「現状維持又は拡充」になりますよね。目標値の310という数値がどこからきているのか。

(事務局：辻野主事)

310という数値に関しては平成24年度の実績に類似するような数値を掲載しています。

ただ、おっしゃっていただいたように、一概に数値が高い低いということでよし悪しはつけられません。ごみを減量化したので目標値より数値が低くなっているのか、分別をせず一般ごみに混ぜて捨てているから数値が低くなっているのか、この値からはわからないので、達成率は不明瞭なところではあります。

(事務局：池西課長)

補足説明させていただきます。目標値の310というのは平成24年度以前の平均した数値を記載しています。有価物集団回収は古新聞、古雑誌、ぼろ布などを回収することに対し、補助をして再資源化を行うように取り組む制度です。目標値と実績値の差は、古新聞、古雑誌などを一般ごみとして捨てるなど再資源化されていない分だと考えてよいです。

(岡委員)

最初はそう考えたのですが、前年度の実績値を見て次の年に目標値が280にすることは根拠に欠けているのではないかと。

(事務局：池西課長)

人口が減少してきており、目標値の見込みがなかなか立てられず、目標値を310から280に下げました。

(岡委員)

となると、本来の目標値の310に問題があったのかもしれないですね。科学的な根拠が理解できない。

(澤井委員長)

目標値の設定の仕方の問題ですね。不確定といっても基準がいくつかあるので。再資源化には4Rありますね、リサイクルやリユースなど。そういった要素が入ってくると、どういうふうに評価すれば良いか難しい。

リサイクル再生資源引渡し量の実績値の106は補足資料2の処理量の合計値ですね。目標値から実績値がなぜこんなにも減ったのか、人口が減なのか、村民の努力で減っているのか、どういうふうに計ったのか。それによって目標値の設定の仕方が変わってきますね。

先ほど説明の中で改善のところで、種類の細分化と言っていました、分別の種類を増やす

ことでこういった効果があるのか。

(事務局：辻野主事)

分別の細分化をすることで、住民の意識向上が挙げられます。また、平成25年度に小型家電リサイクル法が施行されました。現段階では努力義務であり、府下市町村でも3市ほどしか実施していませんが、村においても検討していかなければならないと考えています。

(井関委員)

補足資料2の歳入歳出の内訳は。

(事務局：辻野主事)

歳入から説明します。カン・ビンは買取業者及び買取価格を入札により、決定しています。ビンのその他色については、有価物ではないので業者に処理をしてもらっています。

ペットボトル、プラスチック製容器包装に関しては、容器包装リサイクル法に基づいて、日本容器包装リサイクル協会に処理委託しています。ごみの減量化、引き渡し物の品質によって協会からキャッシュバックされた額を記載しています。

金属くずに関しては有価物でなく、処理のみですので、歳入はありません。

歳出を説明します。カン・ビンは一緒に回収しており、収集・選別費用額となります。

ペットボトル・プラスチックに関しましても、収集・選別費用額、並びに日本容器包装リサイクル協会への処理委託料があります。

金属くずに関しましても、収集及び再生処理費用です。

(澤井委員長)

業者に委託しているのですか。

(事務局：辻野主事)

そうです。

(澤井委員長)

毎年定額で委託しているのか。少し額にずれがあるのは。

(事務局：辻野主事)

委託料は毎年度世帯数で確定していますので、世帯数の増減でずれがあります。

(井関委員)

古新聞・古雑誌などの回収は中津原地区では子ども会でしており、子ども会への収入になっていた。子ども会がなくなってからは、地区でしており、村からの補助金と業者からの収入があり、地区の人口が減っていく中でこの財源は非常にありがたい。

リサイクルに貢献している以外に、地区活動の財源になっている側面もあり、この事業は良いと思っている。

(道田委員)

古紙に関しては補助金があるから採算が取れているのか、なくても採算が取れるのか。

補足資料2の他の資源を見てみると、歳入歳出でマイナスになっている。ごみを減らすことに関しては非常に有効だと思うが、せめて歳入歳出額が同じくらいにはならないのか。

古紙は地区で回収をしており、分別がきっちりされている。それに比べ、先ほどプラスチックに関しては品質によって買上げ価格が変わると聞いたが、住民のプラスチックを出すマナーが悪いのではないかと。汚れてようが、包装紙がついていようが一緒に捨てられている。

プラスチックごみの品質を良くすると、買上げ価格が上がるのではないかと。

(清水委員)

有価物集団回収は業者から村が買取額をもらっているのか。

(事務局：辻野主事)

地区です。

(清水委員)

課題として挙げている分別の細分化だが、村としては、小型家電の回収なのか、現在回収している資源の細分化なのかどちらで考えているのか。

(事務局：辻野主事)

細分化に関しては、1つの例として小型家電を挙げっていますが、他市町村でもっと分別をしているところがあり、ごみの減量化、リサイクルの向上をするためには、資源の細分化が1つの案としてあると考えています。

(清水委員)

生ごみの日に資源ごみを出している家庭を見かける。ごみ捨てのマナーをもう少し徹底できればと思う。事業自体はこれからも進めていくべきだろうと思う。

(岡委員)

評価調書のⅡ事務事業の実施の総コスト費ですが、資源リサイクルに関しては人件費はいるが、他は±0でいけていると解釈すればよいのか。そうならば、より分別化していけば、人件費以外は±0に近づくという意味ですか。そうは解釈できないのですか。

(事務局：池西課長)

事業費Aの中には、委託料が含まれています。

(岡委員)

将来にわたって事業費が小さくなればなるほど良いですね。

(事務局：池西課長)

ごみの収集運搬の委託料は一家庭での単価で計算されており、一概に小さくなれば良いというわけでもないです。

(岡委員)

この事業費が小さくなればなるほど好ましいと考えてはいけないのですか。

(事務局：中島主事)

小さくなるほど世帯数が減っているということになります。

(岡委員)

一世帯の単価を減らせば良いのでは。

(事務局：松村理事)

処理量が増えれば、総事業費は変わらないが財源内訳のその他の特財が大きくなり、村からの支出である一般財源が減ります。総事業費が変わらなくても、売上量が上がっていき、村としては経費がかかってこなくなります。

(岡委員)

分別の細分化が求められれば、その他の特財が増えるのか。

(事務局：松村理事)

そうすると、収集の経費が増えるため、そちらのコストが上がってきます。

名古屋市では13種類ほど分類しています。住民の意識や場所などが必要になります。もっと大別な分別収集をしている自治体もあります。

細かくすればするほど、行政としては回収率が良くなっていきますが、収集コストと、各家庭の分別への負担があり、課題となります。

(岡委員)

しかし、さらなる分別への細分化が求められているのですよね。

(事務局：松村理事)

限られた資源のリサイクルからいうと、できるだけ効率よく、再利用するためには求められています。業者は収集だけで、村は入札をして有価物を売ります。歳入に記載しているのが、有価物を売った額です。

(清水委員)

補足資料２の分別をさらに細分化したら、有価物の引き取りで歳入が増えるだけでなく、歳出も増えるということですか。

(事務局：松村理事)

そうです。細分化すると、同じプラスチックでも単価の高い物と不要の物とを分けられるので、買取の単価が高くなり、売り上げが増えるが、その分手間がかかり収集の経費が上がります。また、それだけ細分化しても住民の方がきっちり出してもらえるかという問題があります。

(道田委員)

人件費を使わずに収入アップをするには、住民の協力を得てきっちり出してもらうことしかないと思いますので、住民の協力を得られるよう、もう少し積極的に取り組んだら良いのでは。プラスチックごみでなく、プラスチック資源だということを、もう少し広報したら良いのではと思います。

資源となるプラスチックと資源にならないプラスチックを分別するだけでも、プラスチックの価値が上がると思います。そういった取り組みはできることだと思います。

(事務局：辻野主事)

プラスチック容器包装に関しては、補足資料２の平成２３年度と平成２４年度の歳入を見比べていただきますと、処理量はあまり変わらないが、歳入金額が非常に変わっていることがわかります。これは日本容器包装リサイクル協会が、買取品質の良し悪しと前年度とのごみの減量化を総合判断し、歳入額が決定されています。

平成２３年度と平成２４年度でかなり変わっているのは、平成２３年度は減量化に大きく貢献したためであり、平成２４年度から平成２５年度に関しては、回収量が増えてしまい、減量化に貢献していないということで、歳入額がかなり減っています。

ただ、平成２４年度、平成２５年度に関しては、プラスチックの品質が良かったので、その分の金額は増えています。総合的には平成２３年度と比べると非常に少なくなっています。

単純に品質が良い、回収量が増えたなどで、歳入に反映されるというものでもありません。

(道田委員)

減量は前年度と比べてということですか。

(事務局：辻野主事)

そうです。

歳入の計算が非常にややこしいシステムになっており、日本容器包装リサイクル協会が全国の市町村や容器包装を生産している業者に、予定搬入量や予定生産量の照会をかけます。それに基づき、リサイクル協会の予算額が決まります。プラスチックの再製品化をする委託業者を

入札で決定し、予算額から委託料を差し引いた余りの額を、全市町村にプラスチックの品質や減量により還元されます。

よって予算額と委託料の差が小さければ、品質の向上等があっても、元の還元総額が少ないので、村への歳入額が少なくなります。

また、品質の向上に貢献した市町村が多ければ多いほど、配分する市町村が多くなるため、還元率が小さくなり、村への歳入額が少なくなります。

（３）資源リサイクル推進事業《評価結果及び各委員の付帯意見》

《評価結果 B現状維持（B現状維持：5名）》

【各委員の付帯意見】

（清水委員）

現状維持です。さらなる減量化に全村民を上げて取り組められるように徹底をお願いしたい。

（岡委員）

現状維持です。

（井関委員）

現状維持です。住民の環境意識を高めるという意味で、分別回収は必要なことであり、それに村の費用を使うということは納得できることである。また地区活動にも貢献しているので、現状維持のまま続けていただければと思います。

（道田委員）

基本的には現状維持であるが、見直しをしていただきたい点もある。ごみ集積所を見ていると、プラスチックを分別することにより、普通ゴミの量は以前と比べて減っているように思う。

しかし、いくら普通ゴミが減っても、世帯比率が変わらなければ収集委託料が変わらないという説明だったので、普通ゴミが減った分、収集委託料も減らせるよう努力してほしい。民間目線であればそういった話もでてくる工夫点だと思うので、見直し色の強い現状維持としました。

（澤井委員長）

説明資料をもう少しわかりやすく、工夫できればと。事業自体は現状維持で引き続き頑張っていたいただければと思います。

（４）給食センター維持管理事業〈質疑応答〉

（井関委員）

調理日数は１年間のうちの調理日数日ですか。

（事務局：田中係長）

はい、そうです。夏休みや行事で給食がない日もありますので。

（井関委員）

給食がない日の人件費はどうなっていますか。

（事務局：田中係長）

夏休みは調理委託を外しています。

（井関委員）

委託業者で人数を調整しているのですか。

（事務局：田中係長）

そうです。８月は調理員も来ていません。休みの日は調理員も不要になりますので、給食センターの維持管理として１人、２人いる程度です。

（井関委員）

光熱水費もいらなくなるのですね。

（事務局：田中係長）

８月は調理に係る光熱水費はかかりません。

（井関委員）

生徒数がすごく減りますね。平成３０年には園児数が５６人。よほどのことで人口が増えない限り、この数値になってくるのですね。少子化について何か考えはありますか。

（事務局：松村理事）

小中学生はほぼ変わらないのですが、園児数は民間保育所に行かれる比率が多くなってきたので、園児数が減っていく傾向にあります。過疎地域自立促進計画でそういったことも方策にあげています。このままでいくと、といった推計です。

（澤井委員長）

将来的には変化する可能性もあるのですね。

(事務局：松村理事)

こうならないように、過疎地域自立促進計画などで取り組んでいます。

(澤井委員長)

中学校給食は平成25年からですが、こういった経過ですか。それまではお弁当ですか。

(事務局：中野課長)

お弁当です。全国的にみても大阪府は中学校給食実施率が非常に低く、当時の橋本府知事が中学校給食を実施するようと、府の補助金が創設されました。

村としては近隣市町よりもなるべく早い時期に実施しようということで、平成25年度より実施できるように準備をはじめました。

平成25年度より、小学校と同じ方式で、給食量だけ小学生の1.3倍のカロリーになるように計算し、給食を提供しています。献立は小学校と同じです。

(澤井委員長)

設備の増設などはいらなかったのですか。

(事務局：中野課長)

設備の増設はしています。中学校の受け入れ施設として配膳室と、給食センターの設備の追加です。ただ、もともと小学校が4校ありましたので、当初の給食センターの処理機能的にはまかなえますので、足らない備品や設備を増設しました。また中学校の受け入れ施設として、配膳室やエレベーターの増設を行いました。中学校給食に係る経費として、約9千万円をかけて準備を行いました。

(澤井委員長)

中学生の評判はどうですか。

(事務局：田中係長)

量については足りないということは聞いていません。パンの献立の場合は、おかわりができないので、物足りないという声が多少あります。

中学生になると体格差が出てきますので、クラブ活動や、食生活などをみて指導できるように栄養教諭に検討してもらっています。

(澤井委員長)

栄養教諭は教育委員会に配属されているのですか。

(事務局：中野課長)

所属は学校ですが、センターにて調理していますので、給食センターにいます。

家庭での偏食などもあり、給食で色々なメニューを食べられるので、保護者からは評判は良いです。

(澤井委員長)

給食実施曜日はいつですか。

(事務局：中野課長)

幼稚園は月火木、小学校は基本毎日です。小学校2校どちらも給食の実施がない場合は、幼稚園も中学校ありません。小学校が基準ですので、小学校がある日に幼稚園、中学校も行います。

(道田委員)

補足資料2の1日平均食数は幼小中すべて合わせての数ですか。

(事務局：中野課長)

そうです。調理食数を調理日数で割った数です。

(道田委員)

平成24年度と平成25年度の違いは中学校給食が開始されたので、約100食増えたということですね。おおまかに、幼小中学校の1日の食数はどれくらいですか。

(事務局：田中係長)

平成25年5月1日現在で、小学生224名、中学生114名、幼稚園児52名です。この調理食数には学校教諭、給食センター調理員分も含まれています。

(澤井委員長)

今後も継続していくと思うが、設備の入れ替えや改築はどう考えていますか。

(事務局：中野課長)

設備に関しては20年経っていますので、老朽化が目立ってきています。維持していく上では計画的に設備の入れ替え等が必要ですので、過疎地域自立促進計画の関係もありますが、3年ほどかけて順次更新できればと思います。

いまお見せしているのは給食センターの維持管理のみであり、これ以外に給食の調理委託をしています。約2,600万円の調理委託費が別途かかっています。

給食については、保護者から給食費を徴収していますが、材料費を給食費として徴収しており、それ以外の調理委託や配送委託などすべて村の負担で行っています。

(澤井委員長)

給食費はいくらですか。

(事務局：田中係長)

学年により区分がありますが、小学校1年生から3年生は月4,500円、4年生から6年生は月4,600円、幼稚園児は月2,350円、中学生1年生から2年生は月5,350円、3年生は月4,800円です。8月は徴収していません。

(井関委員)

中学3年生はなぜ低いのですか。

(事務局：矢倉教育長)

受験願書提出など予め給食の必要のない日がわかっていますので、その分を引いて徴収しています。

(清水委員)

成り立つかどうかわかりませんが、給食自体を全て民間委託ということは考えられますか。

(事務局：矢倉教育長)

給食センターを廃止したら民間委託しかありません。

(清水委員)

法的な問題はありますか。

(事務局：矢倉教育長)

問題はないのですが、学校給食法で衛生基準上、調理後2時間以内に食べられるようにしないといけません。今のところ、村に給食センターがあるので、調理後1時間ほどで食べられる状況です。民間委託となり、遠距離となった場合、2時間以内というのは難しくなります。

また、費用面ですが民間委託としたから費用効果が出るというわけでもありません。なぜなら栄養士の資格を持った教諭を1人配置しないといけません。村に給食センターがあるから大阪府から1人配置してもらっていますが、民間委託となれば引き揚げとなり、村独自で雇わないといけなくなります。材料の購入も村が行い、委託業者に渡すということですので、委託業者は調理し、配送するのみとなります。そういったことを計算すれば、村で調理する場合も、民間委託する場合も変わらなくなります。今のところ民間委託は考えていません。

(清水委員)

財源的なことを言えば、河南町や太子町などと共同とするなどの検討はしましたか。

(事務局：矢倉教育長)

河南町は平成26年度から中学校給食を実施しました。今後3町村すべての生徒数が減った場合、共同調理は可能となりますが、現在、河南町は生徒数に合わせた能力の備品などとなっているので、今すぐ共同は難しいです。

(清水委員)

老朽化してくる時期は同じくらいかなと。

(事務局：中野課長)

河南町は今年給食センターを新築しています。新築する2年ほど前に村から河南町へ一緒にしてもらえないかと打診したのですが、村の分を引き受けられる容量や設備はないと断られました。

(事務局：吉田副村長)

過疎地域の指定を受け、整備についても過疎債が適用されるので、民間委託するよりも、村できっちりと整備して安心安全な給食を実施した方が、費用対効果を見ても遜色ない形になるだろうと思います。今のタイミングで、過疎債を使いながら、計画的に整備していけば良いと思います。

(4) 給食センター維持管理事業《評価結果及び各委員の付帯意見》

【評価結果 B現状維持（B現状維持：5名）】

【各委員の付帯意見】

(道田委員)

現状維持です。人数からいうと拡充は無理だと思うが、続けていただきたい。

(井関委員)

現状維持です。人口減のなかで、子どもたちが減っていくことは根本的なところが減っていくということなので、そのあたりを念頭において、長期的な計画を立てていけばと思います。

(岡委員)

現状維持です。

(清水委員)

現状維持です。民間委託や共同設置を検討した結果ということなので、過疎債をうまく活用して維持していただければと思います。

(澤井委員長)

現状維持です。将来的に人口を定着させる施策をしていくと思うが、全体的には減っていくので、余剰設備をどう活用するか、例えば、高齢者の給食に転用するなど、学校設備全体の地域への活用も視野に考えてもよいのでは。

(５) 金剛山の里 棚田夢灯り&収穫祭<質疑応答>

(井関委員)

最初から比べてにぎわいなど活発さはどうですか。

(事務局：北浦課長)

平成２１年度は２，５００人、平成２２年度は３，０００人、平成２３年度は３，５００人、平成２４年度２５年度は４，０００人です。４，０００人以上になると事故などが懸念されます。

(清水委員)

もっと大きくしたい思いはありますか。

(事務局：北浦課長)

できることなら大きくしたいですが、駐車場の確保など厳しい声は上がっています。

(道田委員)

ろうそくに火を灯すのはどなたですか。

(事務局：北浦課長)

初年度は役場職員で行っていましたが、現在はボランティアとして村の小中学生を募集しています。村外の方は棚田の保全活動として「棚田故郷ファンクラブ」に入っていており、そういった方にも参加してもらっています。

(道田委員)

拡充はもちろんしたいが、存続するためにはこれだけ人口が減っている中で、人手を探すのが大変だと危惧する。

(澤井委員長)

小中学生のボランティア数はどれくらいですか。

(事務局：井上課長代理)

小中学生で１００人募集しており、それに付随して保護者が来られるため実質１３０人ほどです。役場職員は３０人ほど、棚田故郷ファンクラブは２０人ほど、合計１８０人ほどで実施

しています。

(澤井委員長)

午後5時くらいから始めるのですか。

(事務局：井上課長代理)

並べるのが午後2時半からで、4時半ごろから点灯しています。

(道田委員)

点灯は一斉ですか。

(事務局：井上課長代理)

そうです。棚田を区画割して一斉点灯しています。

(道田委員)

点灯も小学生が参加ですか。

(事務局：井上課長代理)

並べるところから点灯まで参加しています。カップに水を入れ、フロートろうそくを浮かせて点灯しています。

(澤井委員長)

奈良の燈花会では奈良女子大学生がボランティア参加しており、良い反応が出ている。参加する意思が出て、奈良により関心を持つようになっている。

(事務局：北浦課長)

村外からのボランティアの問い合わせもあります。

(清水委員)

他イベントの同時開催の検討は何かされましたか。

(事務局：北浦課長)

最初はライトアップのみでしたが、農業文化祭や、中学校のブラスバンド、中津原地区の獅子舞などと一緒にしました。村の観光の一面としてもっと引き出したいところがあれば一緒にしていければと思っています。

(道田委員)

点灯中は棚田を歩くことはできないのですか。

(事務局：北浦課長)

当初は柵田に入っていく方もいましたが、危険なため、現在はロープを張って規制しています。

(事務局：井上課長代理)

消防分署から柵田までの道の両サイドに灯籠を灯して歩けるようにしています。

(道田委員)

歩くための整備もまた大変だと思う。暗くしないとライトアップが見えない。かと言って、足元は照らさないと危険。

(澤井委員長)

交通の混雑具合はどうですか。

(事務局：井上課長代理)

道自体は渋滞にはならないが、駐車場が赤阪小学校と村民運動場にあり、出入り口が混雑しています。赤阪小学校は100台ほどしか入らず、1時間ほどで埋まってしまいます。村民運動場では400台確保していますが、ピーク時には道路に並んでしまい、周辺道路の広いところに縦列駐車される方もいます。警察と連携し、注意していますが、今後広いスペースがないと、規模や集客の拡大は厳しいものがあります。

(井関委員)

富田林市のスポーツ公園の駐車場は借りられないですか。

(事務局：井上課長代理)

当初交渉しましたが、富田林市も営業や、閉館時間もあり、断られました。

(事務局：北浦課長)

柵田の裏側になり、自動車のライトが重なってしまいます。

(澤井委員長)

出店は農業文化祭の流れからですか。

(事務局：井上課長代理)

そうです。農業文化祭のときは25店舗ほどで、くすのきホールにて行っていましたが、中学校グラウンドはスケールもあり、プラス10団体公募募集を行い、現在に至っています。

(澤井委員長)

売り上げはどうですか。

(事務局：井上課長代理)

売上額のアンケートはしていないのですが、どのブースも完売であると報告をいただいています。

こういったイベントを通じて交流人口を増加させるとともに、農業祭では業として出店している方もいますので、ここを機に知名度を上げ、日ごろお客様としてリピートしていただければ良いと考えています。

(５) 金剛山の里 棚田夢灯り & 収穫祭<評価結果及び各委員の付帯意見>

【評価結果 B現状維持 (B現状維持：5名)】

【各委員の付帯意見】

(井関委員)

現状維持です。村の知名度を上げるという効果があると思う。将来的に、知名度を上げるだけでなく、なんらかの形で村の経済効果を上げるといったところまで持って行ける道筋を考えていただければと思う。

(道田委員)

拡充寄りの現状維持です。続けていければ良いなと思います。

(清水委員)

現状維持です。駐車場や祭を支える人材の問題があるが、村の活性化につながるように、村が一丸となって取り組んでいただければと思います。例えば村で行われている他の祭りを一緒にしたり、南河内でも同じような祭りがあるので、連携してPRできる場を作ったりすればもっと人気が出るのではと思います。村の活性化の起爆剤としてこの事業を使っていただければと思います。

(岡委員)

現状維持です。村の収入につながる何かがあればと思います。さらなるPR活動をしていただければと思います。

(澤井委員長)

現状維持です。ぜひ続けていただきたい。村民ができるだけお客さんにならないような参加ができることを考えていただければと思います。事故があると終わりなので、交通も含め気を付けていただきたいと思います。棚田は地域資源であるので、耕作放棄地の解決のきっかけにいただければと思います。

奈良県宇陀市室では37戸の集落でうまくしているところがある。放棄地も空き家もゼロであり、新しく4世帯が移住してきている。この地区では集落営農をしており、放棄地に手を入れ、ゼロにしている。色々な事例があるので検討していただければと思う。

2. その他

事務局より今後の日程について説明を行いました。

次回開催10月7日（火）午後1時から。

閉会